

小中学生の保育所体験を通じた社会的経験の場づくり

少子化、核家族化の進む地域社会の中で、地元の小・中学生に乳児保育所ならではの環境の中で、赤ん坊との触れ合いを体験してもらう。現在の社会状況では得づらくなった乳幼児との触れ合いという経験の場を提供している。さらにこの体験を通し、「赤ん坊の愛らしさ」と「命の尊さ、大切さ」を知ることで、人への思いやりや優しさを学び成長も促している。

山口県

社会福祉法人

吉敷愛児園

〒753-0072 山口県山口市大手町6-17

TEL : 083-922-7126 FAX : 083-922-7127

◇法人設立年

昭和30年

◇法人実施事業

①経営施設（事業）数：6施設

②経営施設・事業の種類：

保育所…4、発達支援センター…1、等

◇法人の理念・経営方針

多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的とする。

◇取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

愛児園乳児保育所

【施設種別及び利用定員】

保育所 60名

◇活動内容

○活動開始年

平成16年7月

○活動の対象者

地域の小・中学生

○活動の頻度・時間

毎年7・8月の夏休み期間に、各月5日間合わせて10日間。1回あたり3時間程度。

◇活動実施の背景、実施にいたった理由

当園の地域子育て支援センターは、平成元年より、0～2歳の子どもたちへの保育サービスを行っていた。この間、社会の情勢は少子化・核家族化が進行し、子どもたちを取り巻く環境は変化し、一人っ子や、家の周りに小さな子どもがおらず乳児との触れ合いが持てない子が増加してきた。

そこで当園では、小・中学生に保育所に来て幼い子どもたちとの触れ合いの場を提供する企画をしている。「実際に乳児に接することで、乳児の体の柔らかさ、愛しさを感じてほしい。一杯一緒に遊んでほしい。」と言う思いからの企画であったが、募集をすると予想以上に反響があり、毎年のように定員一杯の応募がある。改めて、社会のニーズが高いことを感じているところである。

◇実施内容

毎年7月初旬に地元の広報誌・フリーペーパーを通して参加者を募集する。7・8月共に月～金曜日の計10日間開催する。各日3～4人、合計約30～35人程度を参加定員とし、参加にあたっては事前に保護者から承諾書を提出していただく（要保険加入）。

＜当日のスケジュール＞

9：00～ 保育所の生活や乳児について簡単な説明を聞く。その後、保育室に入り小さな子どもたちとの触れ合いを体験し、一緒に遊ぶ。夏ならではの水遊びや、体を使った運動遊び、部屋一杯の月齢・発達に合わせた玩具・遊具での遊びを楽しむ。

11：15～ 給食試食。保育所の子ども達用の薄味で作られた手作り給食を試食する。

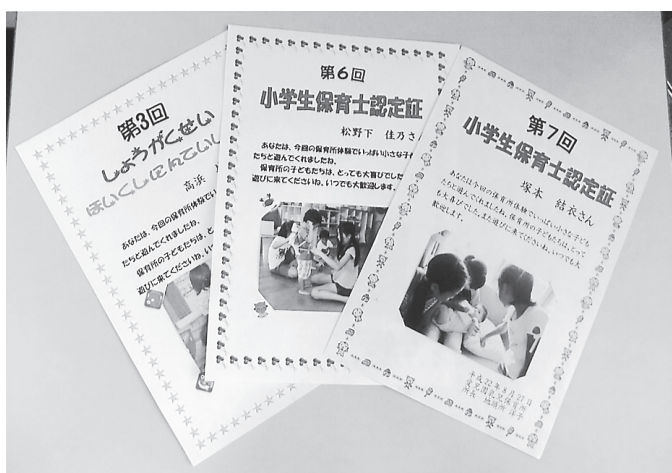
12：00～ 感想を記入。園独自で作成の小学生・中学生保育士認定証を渡す。

12：30 終了

◇活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

参加する子どもたちの中には、将来保育士希望の子どもたちも多く、毎年参加することでその希望を強く持ち、受ける側の保育士もその子どもの成長ぶりや、意欲をひしひしとを感じる場面も見受けられるとのことである。小中学生とは言え、保育所側も良い意味での緊張感があり、無事10日間が終わった時には達成感を覚える。

子どもたちから話を聞き、認定証を見た保護者からは、「こんなことまでしていただけるんですね。夏休みの良い思い出ができました。来年もぜひ参加したいです。」等のご意見をいただいた。このことから、保育所に対する理解の促進と、子どもたちの活動意欲を満たすことはできているのではないかと考察する。



◇今後の展開

開かれた保育所、地域に根ざした保育所としての使命を今後さらに発展させるべく、今後も本取り組みについて継続していきたい。社会のニーズを敏感に受けとめ、乳児専門の保育所ならではの「メリット」を前面に打ち出し、時代に合った受け入れ、交流に努めていきたい。また、幼い子どもたちとの触れ合いを通し、少子化・核家族化の進む時代を生きる子どもたちに不足している部分を、保育所で少しでもカバーできればと考えている。

◇主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
事務連絡費	2,800円	法人負担	16,800円
用紙・写真代金	3,500円		
給食試食分	10,500円		
<合計>	16,800円	<合計>	16,800円

・取り組みにかかわった職員数 ※園職員全員
(職種等：保育士、看護師、栄養士他)